

Q3 読み方の苦手な子どもには、どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

形の似ている文字を間違えて読む。
 助詞や文末などを正しく読めず、自分の思い込みで読んでしまう。
 ちょっとした物音にも気がそれ、集中して読めない。
 単語や分節の区切りを誤って読む。
 長い文章を読むとき、行をとばして読んでしまう。

- 状態の理解のポイント
- ・ 似ている漢字や平仮名の視覚的な弁別が十分にできていない。
 - ・ 集中して文字を見る・追うことができない。
 - ・ どこで区切ったらよいか分からない。
 - ・ 行が変わると、どこを読んだらよいか分からなくなる。

考えられる対応

形がよく似た文字の誤った弁別を確認し、その違いを言語化して子どもも話すようにする。(図82)
 読めない漢字はあらかじめ仮名をふっておく。
 一つ一つの文字を大きくする。一字ずつ指差しながら読むようにする。
 単語をまとまりとして素早く読み取れるように、フラッシュカードなどを用いる。
 単語や分節の区切りごとに / 線を付けたり、ラインを引いたりして、区切って読む練習をする。(図83)
 行間を大きく取った教材を提供する。
 一行だけが見えるページカバーを用いて、読んでいる行をとらえやすくする。(図84)



図82 形の違いの言語化



図83 区切りの情報補充

文字が大きく、文字数の少ない文章で、分節ごとに分けて書いてある本を選んで、家庭で読む機会を設定する。
 読めない漢字のふりがなや分節ごとの区切りの / 線の記入をお願いします。

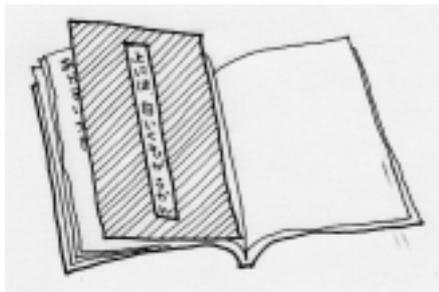


図84 ページカバーの活用